

11 知多の恵み（愛知県美浜町、南知多町、武豊町、半田市）

協議会の構成員

有機農業者（15名）、美浜町役場、生協連合会アイチョイス

生産概要（令和3年度）

- | | |
|----------------|-------------------------------|
| ■ 取組面積 | ■ 栽培品目：にんじん、たまねぎ、ブロッコリー、さといも等 |
| 有機農業取組面積：8.3ha | ■ 有機農産物の生産量：30トン |
| ■ 有機農業者数：15名 | ■ 構成員の主な取引先：生協連合会アイチョイス |

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・有機農業者数の増加：13名（令和2年度）→15名（令和3年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：7.2ha（令和2年度）→8.3ha（令和3年度）

2. 経営の向上

- ・有機農産物の販売額：770万円（令和2年度）→1,200万円（令和3年度）

取組のポイント（令和3年度）

■ BLOF理論に基づいた栽培研修会の開催

- ・地域課題である田畑転換の実現を目指して、BLOF理論に関する研修を通年（年3回）開催し、新規就農者が4名定着・増加。
- ・土壌分析結果から施肥設計を行い、植物生理に基づいた農業理論への理解を深め、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■ 緑肥資材の活用

- ・前年度に引き続きソルゴーを始めとした緑肥を生育し、ほ場内にてそのまま粉砕・すき込みを行い、資材をほ場内で循環できる手法の確立に取り組んだ。



BLOF理論に基づいた栽培研修会の様子

■ 自治体と連携し学校給食への有機野菜導入の検討

- ・美浜町産業課と打合せを重ね、次年度学校給食への有機野菜導入を目指し、町内5保育園と小中学校給食センターに提案する活動を実施した。



知多半島を有機農業の一大生産地にするべく、日々農業に取り組んでいます！！
共に取り組む仲間を募集していますので
ご興味おありの方はご連絡下さい。

問い合わせ先
知多の恵み事務局 杉浦
080-1113-9806

〔 東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313 〕

12 名古屋オーガニックアクション協議会（愛知県南知多町ほか）

協議会の構成員

有機農業者（8名）、南知多町、株式会社yaotomi、(株)三河グリーンズ
自然派ママの会@あま市、半田市

生産概要（令和3年度）

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| ■ 取組面積 | ■ 栽培品目：なたね、たまねぎ、だいこん、パプリカ等 |
| 有機農業取組面積：25.8ha | ■ 有機農産物の生産量：50トン |
| うち有機JAS取得面積：1.3ha | ■ 構成員の主な取引先：5箇所 |
| ■ 有機農業者数：8名 | （イオンリテール(株)、(株)ヤマナカ、ショクブン等） |

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・ 有機農業者数の増加：7名（令和2年度）→8名（令和3年度）
- ・ 有機JAS取得面積の拡大：0.9ha（令和2年度）→1.3ha（令和3年度）

2. 経営の向上

- ・ 有機農産物の取引先：8箇所（令和2年度）→15箇所（令和3年度）

取組のポイント（令和3年度）

■ 学校給食への有機野菜の継続的納入実現

- ・ 町と事前に規格について入念な打ち合わせを行い、大きくなりすぎた規格を中心に扱って貰うことで、価格条件を合わせ、これまでに引き続き南知多町の学校給食に有機玉ねぎを納品できた他、新たにかぼちゃ、大根も納品できた。

■ 「野菜の機能性」を高める生産方法の勉強会実施

- ・ 有機栽培において高機能性の野菜を生産するため、有識者や名城大学教授を招いて、栽培環境等ロジックの研究と実際の栄養価の差異との関係性について、検証と検討を継続的に行なった。

■ 「野菜の機能性」を消費者に伝える手法の勉強会実施

- ・ 販売時における店頭表現について、公益財団法人日本ヘルスケア協会が、2020年10月5日に内閣総理大臣・農林水産大臣の認証を受けて正式にスタートした野菜・果物の機能性表示に係る実証試験の結果等を学ぶとともに、機能性表示の届出制度と申請書類の作成の方法について学んだ。



大学との協力関係は現在も続いている。栽培方法による機能性の違いや炭素貯留量をいかに店頭表示していくのか？今後も検証と検討を重ねていきたい。

問い合わせ先
名古屋オーガニックアクション協議会 0569-89-9715

東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313



13 自然派京都有機農業推進協議会（京都府亀岡市等）

協議会の構成員

(株)オーガニックnico、バイオ・ラビッツ(株)、(株)ヴィレッジトラストつくだ、かたもとオーガニックファーム、咲花畑、戸田農園、(株)丹後王国ブルワリー、しぜん派新田農園、個人農家3件、NPO法人みのりの森劇場、(株)アースコンシャス、(株)京都ベジラボ、(株)いにしえ、生活協同組合コープ自然派京都、亀岡市

生産概要（令和3年度）

- 取組面積：3.6ha
- 有機農産物の生産量：95トン
- 有機農業者数：10名（有機JAS認証農家4名）
- 栽培品目：トマト、ニンジン、大根、はくさい、じゃがいも、かぼちゃ等

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大（令和3年度末の増加数）

- ・有機農業の転換者の増加：1名
- ・有機JAS認証取得者の増加：1名
- ・有機農業取組面積の拡大：72a

2. 経営の向上

農業経営における基本的なPDCA、経営数値や目標数値等を学び経営課題への対処法を習得。

取組のポイント（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- 栽培技術向上のための取組（2回/年）
BLOF理論に基づく栽培技術講習会や実証試験圃場での技術指導を実施しました。
- 有機農業の優位性をアピールするPRビデオを制作し各種イベント会場、HPやSNS、YouTube等で配信を行いました。

2. 経営の向上

- 農業経営力の向上の取組（2回/年）
農業経営の概要、経営数値や目標数値の可視化、目標と現実のギャップの把握と対処法等
有機農業者、新規農業者が直面する経営課題の学習会を開催しました。
- 栄養価コンテストへの出品（2検体）



有機農業を推進し、体、心、地球に優しい「食」を知ってもらいたいと制作したPRビデオ「おいしいはたのしい」ぜひご覧ください。

問い合わせ先
自然派京都有機農業推進協議会
事務局 0774-74-8401

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

14 茨木オーガニック農業推進協議会 (大阪府茨木市)

協議会の構成員

茨木市農業委員会、茨木市農とみどり推進課、生活協同組合コープ自然派おおさか、株式会社コープ有機、NPO自然派食育・きちんとしほん、有機農業者

生産概要 (令和3年度)

- 取組面積
有機農業取組面積：40a
- 有機農業者数：6名
- 栽培品目：ごま、玉ねぎ等
- 有機農産物の生産量：1.3トン
- 構成員の主な取引先：箇所
(コープ自然派生協、学校給食、道の駅など)

成果 (令和3年度)

1. 有機農業の拡大

- ・ 有機農業取組面積の拡大：15.7a (令和2年度) → 40a (令和3年度)

2. 経営の向上

- ・ 有機農産物の出荷量：493kg (令和2年度) → 1.38 t (令和3年度)

取組のポイント (令和3年度)

■ 有機栽培等の学習会、講演会の開催

- ・ BLOF理論に基づいた栽培や有機農業をめざす堆肥づくり、有機農業と消費者の提携のありかた等を学ぶため年5回の学習会を開催した。
- ・ BLOF理論においては土壌分析から施肥設計を行うことが有機農業を実践するうえで需要ということを学び構成員の技術知識の向上につながった。
- ・ 講演会では農福連携をテーマに農業がかかえる問題と障がい者支援の課題を、両者を上手く組み合わせた事業の実例と取り組みを学んだ。

■ 学校給食への有機ごまの納入

- ・ 学校給食へ茨木産の有機のごまを納入すると同時に、イバゴマチラシ(茨木のごまの愛称)18700枚・ポスター50枚の作成。ゴマメニューを市内全小学校(33校)で取り組み、全小学生に「イバゴマ」チラシを配布。利用拡大に向けたポスターを茨木市内小学校全校に掲示。

■ 加工品の開発

- ・ ゴマを使ったジェラートを地元の農産加工販売業者と開発し、加工品の取り組みを行った。



生産者と消費者がちからをあわせ有機農産物の拡がる取り組みを行っています。

問い合わせ先
茨木オーガニック農業推進協議会
(コープ自然派おおさか内)
TEL : 072-635-0777

15 神戸有機農業者CSA推進協議（兵庫府県神戸市）

協議会の構成員

株式会社ナチュラリズム、神戸市経済観光局農水産課、兵庫県農業改良普及センター、有機農業者8名、新規就農者3名

生産概要（令和3年度）

- 取組面積
有機農業取組面積：6.6ha
うち有機JAS取得面積：3.4ha
- 栽培品目：カーリーケール、米、大麦等
- 有機農業者数：11名
- 構成員の主な取引先：3箇所
JA兵庫六甲、（株）ビオマーケット、（株）良品計画

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・有機農業者数の増加：8名（令和2年度）→11名（令和3年度）
- ・有機JAS認証取得者数の増加：4名（令和2年度）→5名（令和3年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：5.1ha（令和2年度）→6.6ha（令和3年度）

2. 経営の向上

- ・ファーマーズマーケットの開催、CSA会員増加により所得の向上が見込めた。
- ・CSA会員数：32名（令和2年度）→45名（令和3年度）
- ・企業CSA導入企業：1社（令和2年度）→2社（令和3年度）
- ・有機農産物の取引先：2箇所（令和2年度）→4箇所（令和3年度）
- ・ファーマーズマーケット開催回数：2回（令和2年度）→4回（令和3年度）

取組のポイント（令和3年度）

■実需者を迎え有機米の栽培イベントの実施

- ・協議会員、実需者60名を迎え、田植え、除草、稲刈り、収穫祭、収穫したお米の米麴を活用した味噌づくりと年間5回のイベントを開催。農作業を行い、料理研究家を迎えた料理教室、そしてみんなで会食という流れで有機栽培での米作りの大変さや食味の良さを実感できた。



■専門家を迎えたオンラインセミナー

- ・摂南大学谷口先生を迎えたオーガニック市場等に関するデータの特性や分析結果から読み取るトレンドなどの勉強、IFOMジャパン理事の福井さんを迎えた世界のオーガニック事情の勉強、龍谷大学藤岡先生を迎えたオーガニック農産物のブランディングの勉強等、非会員にも参加できるオンラインセミナーを開催し、毎回50名程度の参加があり、理解促進につながる機会となった。



CSAを通じて有機農業を広げていく活動を協議会で行っています。安心安全な野菜が当たり前食卓に並ぶそんな社会を目指しています。

問い合わせ先
神戸有機農業者CSA推進協議会
090-8934-6611

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

16 かしはらオーガニック（奈良県橿原市）

協議会の構成員

生活協同組合コープ自然派奈良、農事組合法人農民連奈良産直センター、
奈良有機農業推進協議会農業者、橿原市農政課

生産概要（令和3年度）

- 取組面積
有機農業取組面積：260a
- 栽培品目：水稻、人参、キャベツ、白菜、じゃがいも
- 有機農産物の生産量：2.9トン
- 有機農業者数：8名

成果（令和3年度）

1.有機農業の拡大

- ・有機農業者数の増加：6名（令和2年度）→8名（令和3年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：207a（令和2年度）→260a（令和3年度）

2.経営力の向上

- ・販売戦略に係る意見交換により、学校給食への販路拡大、経営の向上が見込まれる。
- ・栽培技術講座により、品質・単位面積当たり収量の向上が見込まれる。

取組のポイント（令和3年度）

■ BLOF理論に基づいた有機栽培技術セミナー開催（4回）

- ・太陽熱養生処理、体積法による土壌分析・施肥設計、水稻の白根栽培など、テーマを分けて栽培技術セミナーを開催することで、実践的な技術を学ぶことができた。
- ・また実践圃場研修会では、同じ立場で技術を学ぶメンバー同士で率直な意見交換をし、失敗も含め経験を共有することができた。
- ・さらに、有機JAS取得に向けた認証制度入門研修を行い制度について学んだ。



■ 有機JAS認証制度 入門研修開催



■ 事業報告会

- ・報告会には橿原市長・農政課長も参加し、有機農業と地場産給食の取り組みや、実践農家からの報告を共有し、給食協定締結に結び付いた。



大根部門最 最優秀賞

 白秋		奈良県 かしはら オーガニック 藤井敬治			
		糖度	抗酸化力	ビタミンC	硝酸イオン
検体		6.1	41.6	17.3	103
平均値		4.6	25.7	14.3	1280

実践農家2名が、栄養価コンテストで最優秀賞を受賞しました（大根部門と人参部門）！高品質多収穫の有機農業を拡げていきたいです。

問い合わせ先
生活協同組合 コープ自然派奈良
0742-93-4484

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

17 奈良県中央卸売市場オーガニック流通推進協議会（奈良県）

協議会の構成員

有機農業生産者（5名）、（株）へんこ、（株）パンドラファーム、奈良オーガニック（株）
奈良県中央卸売市場協会、奈良県中央卸売市場、奈良県

生産概要（令和3年度）

■取組面積

有機農業取組面積：6.2ha

うち有機JAS取得面積：6.2ha

■有機農業者数：6名

■栽培品目：青梅、いちご

■有機農産物の生産量：56.6トン

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・有機農業者数の増加：5名（令和2年度）→ 6名（令和3年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：6.1ha（令和2年度）→ 6.2ha（令和3年度）

2. 経営の向上

- ・中央市場の農産物流通の仕組みを活用することにより、
流通・販売形態を見直し、流通改善が見込まれる。



取組のポイント（令和3年度）

■市場関係者向け研修会の開催

- ・有機農産物を取り扱う大田市場仲卸業者の事例紹介、スマートフォンを活用した農産物の仕入れ・注文・販売に関する研修会を開催し、市場流通における有機農産物取扱量の増加に関する事例や新技術を学んだ。

■生産者・実需者向け研修会・意見交換会の開催

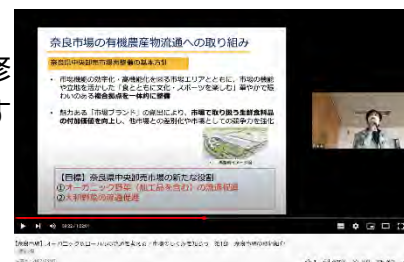
- ・中央市場の機能と役割を改めて確認し、生産や出荷販売の効率化に関する意見交換を行った。

■有機農産物に関する消費者アンケートの実施

- ・有機農産物の購入動機や品目・価格などを調査し、今後の生産・出荷の参考とした。

■有機農産物生産者の経営実態調査

- ・「いちご」について、慣行栽培との経営比較を行い、有機栽培における改善点を調査した。



市場機能を活かし、実需者、消費者が有機農産物をより入手しやすい仕組み作りを行っています。

問い合わせ先
奈良県中央卸売市場オーガニック
流通推進協議会

0743-56-7040
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

18 那賀地方有機農業推進協議会（和歌山県紀の川市・岩出市）

協議会の構成員

（株）バイオランド紀ノ川、農業生産法人バイオ・ランド、紀州やさい、紀州農レンジャー、かえるのマルシェ、大西園、（株）耕雲社、shimobofarm、紀の川市環境保全型農業グループ、和歌山有機認証協議会、和歌山県有機農業生産者懇話会、紀ノ川農業協同組合、紀の里農業協同組合、紀の川市、岩出市、和歌山県那賀振興局農業水産振興課

生産概要（令和3年度）

■取組面積

有機農業取組面積：20.24ha
うち有機JAS取得面積：16.24ha

■有機農業者数：34名

■栽培品目：タマネギ、水稻、キウイ等

■有機農産物の生産量：533トン

■構成員の主な取引先：10箇所

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・有機農業実践者の増加：
32名（2020年）→34名（2021年）
- ・有機農業面積の拡大：
19.4ha（2020年）→20.2ha（2021年）

2. 経営の向上

気候変動等で総出荷量は減少したが、一方で販売単価があがったことで総販売額は増え、経営の向上が見込まれた。

- ・総出荷量：147.9トン（2020年）→130.4トン（2021年）
- ・総販売額：2521万円（2020年）→2969万円（2021年）

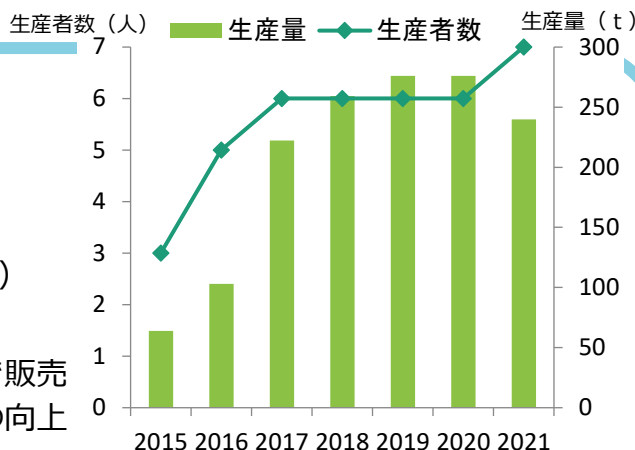


図 タマネギ[有機JAS]生産の推移

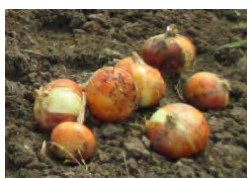
取組のポイント（令和3年度）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・新規参入者への技術習得として、玉ねぎの栽培研修会を年に5回実施したところ、延べ9名の参加があり、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の意欲の向上につなげることができた。

■食育活動の取組

- ・学校給食等において有機農産物の利用拡大に係る市、農協、紀の川市環境保全型農業グループとの連携活動に向けた協議、並びに保育園に対する田植え体験を行った。



農業を通じてみんなを元気に、環境と人に優しい農業に取り組んでいます。この機会にぜひ一度手に取ってみて下さい！

問い合わせ先
那賀地方有機農業推進協議会
0736-61-0025（県那賀振興局・直通）

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722